

平成29年度第1回佐世保市立学校給食検討委員会

議 事 録

- 日 時 平成29年8月29日（火） 午後7時から8時30分
- 場 所 佐世保市学校給食センター 研修見学室
- 出席委員 水江委員 山口委員 井上委員 古田委員 古賀委員 松永委員
吉田委員 帖佐委員 重信委員 浜田委員 塚元委員 11名
- 欠席委員 楠本委員 長富委員
- 事務局 西本教育長 池田教育次長 中原教育次長兼学校教育課長 吉富学校保健課長
佐世保市学校給食センター山口所長 岸川 真崎 江湖
- 教育委員 久田教育委員 深町教育委員
- 傍聴者 5名
- 会次第 1 開 会
2 教育委員会あいさつ
3 委嘱・人事発令
4 諮 問
5 議 事
(1) 「学校給食調理場の今後のあり方」について
(2) 「平成30年度給食費」について
(3) 意見交換
6 事務局からの連絡事項
7 閉 会

◆諮 問

「学校給食調理場の今後のあり方」について諮問をする。

◆議 事

【会 長】 これより議事に入る。まず、会議の成立を確認する。

会次第の一つ目、ただいま諮問を受けた「学校給食調理場の今後のあり方」について、まずは、事務局からの説明をお願いします。

【事務局】 説明に入る前に資料の確認を行う。

※ 本日の資料1～資料12の確認

【事務局】 資料1から資料8の説明。

それでは資料に基づき説明をする。

○資料1：佐世保市立学校給食検討委員会条例

- 資料2：佐世保市立学校給食実施方針
- 資料3：学校給食調理場の現状と課題について
- 資料4：学校給食実施方式について
- 資料5：ドライ方式とウェット方式について
- 資料6：学校給食実施コストの比較について
- 資料7：平成28年度学校給食試食会アンケート結果（保護者）について
- 資料8：児童生徒数の推移及び将来推計

【会長】ただいま事務局から、「学校給食調理場の今後のあり方」についての説明があった。これに関し、皆様からのご意見、ご質問等をお願いする。

【委員】この資料と説明を聞いたところ、今後、佐世保市としては小学校給食をセンター化に変えていこうというお考えなのか。

【事務局】今回、白紙諮問であるので、市としてどうするとは言えない。委員皆様で話をさせていただきたいと思う。

【会長】建設も含めて皆さんで検討をしていかなければならないということだが、栄養士の立場ではどうお考えか。

【委員】施設が良くなるのは衛生面では大変良いことだが、自校方式の良い面は、子供達にとっても食育を行う上で、やはり感謝の気持ちを持つ等、直接仕事をしているところを子供達が真近で見ることができる。また、給食センターも努力をされているが、温かい給食、冷たい給食が食べられるという自校方式の温度管理という面からも、単独校が良いと思う。

【委員】新給食センターが8千食程度と仮定されているが、8千食で全部賄えるのか。それとも、何箇所か必要なのか。

【事務局】仮に8千食という仮定で計算している。

【委員】そうしたら、作る場所は1箇所済むのか。何箇所あればいいのか。

【事務局】現在の児童生徒数からみれば8千食では足りない。資料に人口推移をつけているが、人口が今後減少していくことを見据えた中で、8千食程度の施設を作れば、自校方式のドライ校があるので、その食数を含めれば運営が可能となるということで、8千食としている。

【会長】当面は、新しい給食センターを作れば良いとお考えなのか。

【事務局】先ほど申したとおり白紙諮問という形で、今後煮詰めて行くということなので、この場で私たちが具体的な話をすることはできない。

【委員】行政としてはそう言わざるを得ないと思うが、資料を見るとコストパフォーマンスの面からは、そういう方向性が内々ではあるのかなと想像ができると思って資料を見ていた。要望ではあるが、以前、ここの給食センターを作るか作らないかの時に、別の立場で2年ほどこの会に参加させていただいた。その時に、労働問題にすり替えるような議論が少し出かかったことがあった。もちろん働く人達に十分な見返りを求めるというのは、いろいろな社会の趨勢から必要なことであると思うが、単純に省力化という面をマイナスに捉えて、お話をされることは、今後数年にまたがって会議が行われる中では謹んでいただければと思うのが率直なところである。先ほど栄養士さんの方からお話しがあったが、私はむしろ逆の考えで、確か以前の会議で、校長先生

のほうから、食事の準備の音が聞こえたり、香りが漂って来たり、作っているという雰囲気を味わうことで、これは食育に多く資するという点では、これについて反論はない。確かにそのとおりであると思う。しかしながら、昨今アレルギーの問題、それと食品衛生管理上の問題からすると、むしろセンターの方が安全に思える。作ってすぐに食べるのは温かくていいと思う。PTAの方はご存じであると思うが、学校の現場における検食の実態を考えると、自校方式では、急性の食中毒を完全に露呈させるだけの時間は事実上とれない。ということになると、センターで作って、センターのここで検食をすれば、それは可能である。これはトレードオフというか、細菌数あるいはバイオレス数のコントロールと、防疫上の観点と温かいものを食べさせるというのはある意味トレードオフで、どちらがいいかというのは、まさにこの会で話し合ってもらわなければと思うが、個人的にはセンター化を進めていただくほうが、子供たちの健康の維持という面からは有益なのではないかと思う。

【会 長】他にご意見、ご質問はないか。

【副会長】施設の老朽化について7割程度が古いと説明があった。老朽化に対応せざるを得ない時期が当然来るはずである。コスト的にみると、はるかに新給食センターを建設したほうが安価であると。ただ、土地代が入っていない。ここの給食センターは30分以内で配送できる場所ということで選定があったと思うが、もし、新しく市内中心部に作るとなると、それなりの土地代がかかると思われるので、そうした時に、コスト的にどうなるのかなと思われる。私はセンター方式はむしろ賛成である。本校は中学校でセンター方式であり自校方式の良さも知っているが、小学校6年生も非常に喜んで食べている。資料ではデメリットの所に、若干温かさとか、麺がのびるとか書いてあるが、食缶の開発なども進み、熱々で食べることができているので、センター方式だからといってデメリットとは感じていないところである。

【事務局】参考までに1箇所はここの給食センター。もう1箇所は相浦・中里インターの近くと考えている。同じように西九州道を使って30分以内になればいいと思っている。ちなみにここの土地は造成が必要なかったもので、土地代は当時3億円程度だった。相浦に土地があればと思うが、造成も必要になるかもしれない。

【委 員】ここの給食センターを作るときの議論は、中学校給食を視野においてどうなのというような疑問が当時の委員皆さんにあって、そこで先ほどおっしゃった校長先生の意見は、これが小学校にまで波及すると、ということであった。少し気になったのが概ね給食センターを作るとなると、小学校が対象になると思われる。そうすると市内中心部ではないのかという意見があった中で、少しずらすこともあり得るというニュアンスの回答であった。例えば小学校の専用施設として作られるのか、もしくは地域が二つに分かれるので効率的に考えるのか、ただし食缶の問題とか、食器の大きさや材質であるとかも含めて調達面に影響するので、効率が悪いとなると、こちらは中学校給食、こちらは小学校給食となるのか。もちろん検討中であると思うが、お考えの中に浮かんでいるものがあれば教えていただきたい。つまり、小中併用にするのか、専用として考えているのか。

【事務局】仮に作るとなれば、ここの給食センターにも小学校を混ぜたり、地域的に分けた方が効率的であると思う。

【会 長】他にご意見、ご質問はないか。

【委員】先ほど教育委員会から諮問を受けて、諮問を受けたこの委員会が、いつまでに何をどうするのかスケジュール的なものは決まっているのか。今日、結論を出すのは無理だろうから、次回になるのか来年になるのか。

【会長】答申は来年でいいのか。

【副会長】先ほどお尋ねさせてもらったが、いずれ対応せざるを得ない時期が来るということで、それを何年ぐらいと見込んでいるのか、喫緊なのか、しばらく余裕があるのか、教えて欲しい。

【事務局】時期については、40年を過ぎたところもあり、かなり老朽化した施設もあるので、近いうちにと考えている。方針によって変わるので、いつとは決めていない。検討のスケジュール的には、年度内に2回程度して、新年度に答申をいただければと思う。

【会長】回数がない中で検討をしていかなければならないということで、疑問点とか、こういうふうにしたらいいのではないかとか、お伺いしたいと考えている。

【委員】初めてこの会に参加して、給食センターが新たにできるという検討がされているのを初めて知ったが、給食の前は匂いが教室の中に漂ってきて、今日の給食は何だろうかというような子供たちの楽しみが無くなっていくのかなと考えると可哀そうだと思う。私も子供の頃は給食を楽しみにして、いい匂いがするとか、そういった面が子供の感情を育てていくのかなと考えさせられることもある。

【委員】小学校の教員を30何年して、やはり自校方式の良さがしみ込んでいるので、これがセンター方式になれば寂しい気持ちがある。小学校は6年間のそれぞれの発達段階が違うし、給食の準備にしても1年生はすごく時間がかかってやっている。また、自校方式の良さは、行事がある場合には調理士さんとコンタクトをとりながら、作ってもらう時間の調整などをしてくださるところがすごく有難い。私も毎日子供たちと同じように、匂いを感じながら食欲をそそるといふか、朝、十分に食べていない子供も、おなかが減ったとか声を聞いている。先々、老朽化を考えるとセンター方式も視野に入れないといけないと思うが、やはり自校方式でできる限りは自校方式でやっていただきたいと思う。

【会長】他にご意見、ご質問はないか。

【委員】給食センターや自校方式のどちらにしても、ドライ方式、ウエット方式とあって、随分前からこれからの学校給食はドライ方式がいいと話を聞いてきた。これからは衛生面を考えて、ドライ方式にされるのか。どのようにお考えか。

【事務局】センターにしる自校方式にしる、ドライ方式と考えている。ウエット方式はありえない。

【会長】他にご意見、ご質問はないか。事務局から補足説明はないか。

【事務局】今日初めて資料を渡して、説明をしたところであるが、お持ち帰りいただいて、それぞれの立場で新たな考えが出てくるかと思う。そういう意味では、回数を重ねることが大事なので、長くはできないが、しかるべき時間をとって、いろいろな意見を集約させながら一定のこの会としての考えをまとめていただけるものと思っている。分からないことがあれば事務局にお尋ねいただいて、矛盾点をなくしながら意見を集約していただきたいと思う。できれば、あと2回ほど会を開催し、3回目ぐらいには答申をいただきたいと考えている。お願いしたいと思う。

【会長】短い時間で資料全部に目を通すことはできないので、自宅にお持ち帰りいただきもう一度資料をみていただいて、次回、ご質問やご意見をお受けしたいと思う。

【会 長】続いて会次第（２）平成３０年度の給食費についてとなっている。説明を事務局に願います。

【事務局】資料９から資料１２の説明。

それでは資料に基づき説明をする。

○資料９：主要野菜における納入単価の推移【平成２５年度～平成２８年度】

○資料１０：平成２９年度 学校給食費算出の基礎【小学校・中学校】

○資料１１：平成２９年度 給食費の実績と調整後の比較

○資料１２：県内給食費状況（平成２８年度）

【会 長】ただいま事務局から、「平成３０年度の給食費」についての説明があった。これに関し、皆様からのご意見、ご質問等をお願いします。

【委 員】詳細の資料を提示していただいているが、傍聴をされている方を含めて、私も前回この会に出席した時に知らなかったことで、もしご存じではない方がいらっしゃればということを含めて、事務局から補足説明をいただきたいと思う。私が知る限り当時の話では、給食費の未納に関しては学校単位では発生していないと認識していた。個々の学校の中でいろいろと問題があったことは十分認識しているが、学校から学校給食会に納入しているのは食材費で、働く人達の給料は入っていない。あくまで保護者が負担しているのは食材費とのことである。学校から学校給食会に納入されるお金に未納はないと私は認識をしていた。これは一般的な認識とは随分かけ離れている。未納者がいるから食材のグレードを落としたり、付くはずのイチゴが付かないとか、そんな話がありえないと認識をしていた。であれば、保護者が負担する給食費に関しては、すべてが学校給食会に納入されているわけではなくて、微々たるものは残っている、当時は、例えば洗剤とかタワシとかを買うお金にも少し使われているとご説明があった。だから保護者が納めるのは食材費プラスアルファであって、学校から学校給食会に納めるのが食材費であると認識しているという前提に立てば、そもそもこの調整費というものがどういった根拠のもとにおいて行われているのか理解できない。３，９００円が３，７００円になるという２００円のディスカウントがどこから出てくるのかという話である。４，６００円から４，３００円へのディスカウントは、私は税金という言葉は嫌いなので公の金と言うが、公金から補てんをされているのか。補てんをされているのであれば、筋が違う話で、補てんする必要はないと思われる。例えば、回収のいろいろな手間を考えて数字を丸めることはあっていいと思うが、しかし、この２００円のいわば値引きに関しては、どんな根拠で行われているのか。少しナンセンスだと思う。非常にご苦労されていることは良く理解できる。私も飲食業をやっているので、年間通しの価格で相場を揃えて物を仕入れるとか、非常に大変だと思う。野菜屋も含めて農家の方も大変だと思うが、それを分かったうえで、この実績と調整後決定というのはご説明を頂戴したい。平たく言えば、値上げをしていいのではないのかと言う話ではある。

【事務局】先ほども説明をしたが、回数を減らして調整をしている。

【委 員】回数というのは先ほどお伺いして、回数である程度は調整をしていると思うが、回数を調整して３，９００円から３，７００円になるためには、単純に計算して回数だけなのかなと思うところがある。

【事務局】やはり献立作成の時に、例えば文科省の基準で１００％になるためには何g果物を使わ

ないといけなくなっているが、今はそれを半分ぐらいで調整をしている。先ほども言ったが、文科省の基準で必要量が100g使わないといけないところを95gにする等、95パーセントに落として調整をしている。

【会 長】実際に現場で栄養士の先生はご苦労されていると思うが、この件についていかがか。

【委 員】市教委から説明があったように、献立作成の時はかなり苦労をしている。ここ何年間ずっとである。なぜかという、物価上昇が毎年のようにあっていることと、予算も先ほど出たが、野菜は日頃使う野菜であるので高くなるとかなり響く。調整額のことが出たが、例えば果物のカット数を小さくしたりとか、週に2回程度つければ100パーセントになる計算ではあるが、週1回になったりとか、あと、デザートも以前に比べるとかなり回数は減っていると思う。でも行事食には付けたいという思いがあって、行事食には普通サイズのデザートを付けるようにするために、他の日には、小さいデザートにする等、以前に比べるとかなり調整をしている。肉も鶏・豚・牛で価格がかなり違うが、そこらへんでやりくりをする等、ここ何年ずっと毎月献立を立てる中で価格を見て必ず訂正をしている状況である。こちら側としてもぜひ値上げをして欲しいし、前回この会に出席をした時に、校長先生から物価上昇率について事細かに話をいただいたので、今年度は給食費が上がるはこちらとしては思っていたが、かなわなかったので、30年度はぜひお願いしたいと思う。

【会 長】給食費はここ何年か据え置きなのか。

【事務局】4年間据え置きで29年度が4年目になるが、上がった時は消費税が上がった時である。

【委 員】やはりナンセンスだと思う。自分の子供が学校に行って、しばらく牛肉のメニューは出ませんと書いてあった。ここ2年ぐらい前。しばらく全部豚肉に変えますと。本来牛肉を使うメニューであっても牛肉が使えなくなった。現実として価格を維持するためには仕方がないということで、そこは言っている。学校給食に関しては、現場にいると高騰というのは良くわかる。円の為替の問題もかなり大きい、物が高くなっている。それを据え置きにするという考え方のベースを持って議論すること自体が、なぜそのような議論のベースになるのかが率直なところである。どこかに負担が掛かっているはずである。もちろん、余裕をもって運営してくださいということではない。削るところはちゃんと削ってもらわないといけないし、管理するところはきちんと管理してもらわないといけないが、必要な所に必要なお金はかかる。それを、雑巾を絞って絞って絞れているうちはいいが、破ってしまっただけは何にもならない。この据え置きという考え方がベースにある議論というのは非常に深刻なことと思っている。では2割上げようといっているわけではない。個人的にはきちんとした計算基礎をもってスライドすればいいと思うが、それはそれで集める方のご苦労とか、行政として皆さんに説明する責任を果たすためには、中々、上がったから上がるのだという分けにはいかないのだろうとは理解しているので、一定部分の事については、ある程度、むしろ行政を後押しするような格好でこういった会議があると思われるし、理解を示すことで、ひいては子供のため、もちろん教職員も召し上がるが、子供の食事を考えるのにケチるのかという話である。かかっていけないお金は1円でもかけてはいけないが、かかったお金を無理やり誰かに負担を押し付けて、泣いておけというのはおかしいと思う。そういったベースで議論を進めていただければありがたいと思う。

【会 長】できれば、値上げの方向で進めて行きたいと個人的に思うが、大学の中でも実習費を集

めたりする時に、その年によって給食費は実費でどうかなという時があるので、何年かに1回は検討をしているが、検討をする時期を何年おきとか決めておいて、50円でも100円でも上げていくとしていけばいいのかなと考えとしてはある。

【委員】給食費の決算値はどうなっているのか。27、28年度の主要な食材費は上がっている。メニューや献立によってやりくり調整をして、最終的に給食費の調整があるのか、決算の収支上はどのような形になっているのか。

【委員】学校は2月までが3,700円集めて、3月に調整があり、学年によって行事等で回数が違うので、それによって3月の給食費が決まる。ところが、昨年度は3,700円を超えてしまった。我が校は4,000円台になった。少人数の学校はもっと高くなったのではないかと思う。だから、3,700円では足りないと感じた。今までは、3月は3,700円より低い調整額だったので、回数も予定していたより少ないので、少なくなっていたが、昨年度は高かった。

【会長】調整しても高かったと。

【委員】回数が減ったにもかかわらず高かった。保護者には野菜高騰のためこのようになったと手紙を出したが、保護者からは何もお尋ね等はなかった。

【委員】最初に説明があった学校給食実施方針の中で未納についても書いてあるが、そもそも学校給食というものがどういったシステムで行われているのかほとんどがご存じないはずである。なぜ未納が回収できなかつたのかということと債権者が存在しなかつた。回収できるようなシステムを作るために、いろいろな作業が行われたことはある程度存じている。そもそも、どういった決算になっているのか、保護者が納めたお金がどういう仕組みで動いているのか、次回の会議で結構なので資料を提示して欲しい。こんな感じで給食は子供の口に入っていると、食材はどういうところから仕入れて、どういってお金のやりとりがあつて支払われているのか。そこらへんについては、もっとご存じになったほうが良いと思うことが多い。実態がわからないと、どうしても可哀そうだとか情緒的なやりとりになってしまうので、微に入り細に入りお知らせする必要はないと思われるが、粗方、こういった流れというのを作っていただければと思う。

【委員】最初の資料でも説明があつたように、野菜の高騰はどうしても天候に左右されるので、例年異常気象で今年も高騰していきだろろうということで、給食費も上げるべきだと思うが、先ほど4年前に上がったのが消費税ということだったが、また10%に上がるが、今上げて、また消費税の時に上げるのか。お考えをお聞きしたい。

【事務局】先ほど申し上げたとおり、消費税の時に上げただけで据え置きであるが、基本的には今の考えとしては、いろいろな面で給食のメニュー等でも苦勞なさつているので、子供達のことを考えれば値上げをさせていただきたい。それプラス消費税の時に値上げさせていただきたいと考えている。

【会長】二段階で上げるような形になるのか。

【事務局】実際、消費税率が上がる時の状況にもよるので、今は申し上げられないが、それで大丈夫という給食費であれば、その時は食材分の値上げだけをさせていただく形になるかと思われる。

【会長】この件について保護者としてのご意見はないか。

【委員】値上げは家計に響くが、説明がきちんとされていけば保護者も納得はされると思う。だいたいどのくらい上がる予定なのか。

【事務局】今年度の実績を見まして、それから先ほど算出方法を説明したが、そのような計算になると思う。今、いくらというのは、はっきりはわからないが、資料11で比較をしている程度と思われる。

【会長】まだ試算の段階ということか。

【委員】試算をする時の給食回数は、何回ぐらいの予定か。

【事務局】回数についても、資料11の「実績」として示している回数が、学校の中でもMAXの回数としてあるため、こういう回数のところもあるということで回数を見込んでいきたいと思う。

【会長】学校によって行事等で回数も違ってくると思われる。

【事務局】回数の話がでていたが、3月で調整をして、そこで、おそらく足りないので上乘せして集めるか、学校行事を調整して給食回数を減らすというような調整をしなくてもいいように、価格を決めたいと思う。もう一つ、現場ではギリギリのところまで予定されているカロリーも栄養も全部頭に入れて、それを満たすように頑張っているが、いつかこれは破たんすると思われる。これが子供の健康にもつながってくるので、値上げをしないにこしたことはないが、県内の実績状況を見てご覧のとおり、ここまでして子供へのしわ寄せはさせられないので、保護者の方には大変ご迷惑を掛けるが、なるべく早い時期に決めて、早い時期にお知らせをするということで、来年度からもし値上げをするということになれば少なくとも年内には方針をお知らせしないと周知ができないと思われるので、早急に内容を精査して適正な価格を決めたいと思っている。

【会長】他にご質問、ご意見はないか。

【会長】時間も迫っているので、これで意見をまとめさせていただきたいと思う。

本日は、教育委員会から「学校給食調理場の今後のあり方について」諮問があった。今後、2回の会議を経て答申書の作成を行うことになると思うので、委員皆様のご協力をいただきながら進めていきたいと思う。

また、「平成30年度給食費について」は、値上げの方向で進むかどうかはわからないが、本日の意見を参考に、事務局の方には課題等に向け、事業を進めていただきたいと思う。

以上で、議事を終了する。

◆事務局からの連絡事項

◆閉会

— 了 —